

電気ヒーター—間接加熱式 汚泥脱水乾燥装置

C 特長 characteristics

1. 減容化・肥料化による処理費用の削減

余剰汚泥を乾燥することによって、大幅な減容化による処理費用の削減や、肥料としての再資源化をすることが可能です。

2. 24時間無人自動運転可能

フルオートマチック化で24時間無人自動運転ができるので、小規模な設備でも大容量の処理が可能です。無人処理場への設置に最適です。

3. 小型化によりトラック車載で移動可能

徹底した省スペース化により、トラックへ車載することが可能です。集落排水の複数の施設を巡回して汚泥を乾燥させる運用ができます。

乾燥汚泥の用途

肥料登録をして乾燥汚泥肥料として、そのまま農地に還元できます。窒素やリンを豊富に含んでおり、緑地や農地に利用できます。

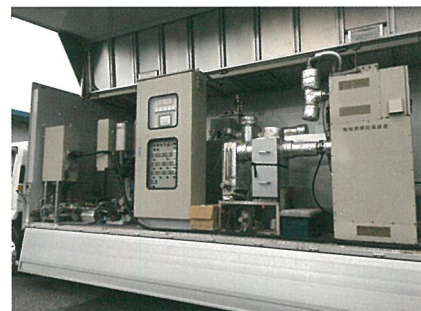
※ 汚泥の成分によっては、有害物質である重金属等が、脱水・乾燥により濃縮され、基準値を上回って肥料登録ができない場合があります。

仕様

型式	TN-10FKE
加熱方式	電気ヒーター間接加熱方式(スクリュウ搬送式乾燥筒)
処理能力	98.5%濃縮汚泥 0.267 m ³ /h
	85%脱水汚泥 26.7 kg/h
	汚泥乾量 4.0 kgDS/h
処理人口	最大3,000人 ※週5日×24時間/日運転の目安(浮遊生物法の場合)
乾燥後水分	10~40%
電気容量	54.3 kW (うち電気ヒーター36.0 kW)
水使用量	200L/日(冷却用)、薬品用の水は別途必要
設置スペース	3.3×7m程度(移送ポンプ、脱水機、乾燥機、制御盤)
付属機器	汚泥供給ポンプ、リアクタータンク、凝集剤注入装置、制御盤
トラック車載	可能



定置型の設置例



車載型の設置例

フロー図 (電気式)

